

病院病理学

—手術・生検材料を中心に—

1985年1月15日

◆編集執筆 / 佐々木 正道

花 井 淳

◆共同執筆 / 虎 頭 廉

松 浦 覺

本 多 光 弥



1985年1月16日

病院病理学

—手術・生検材料を中心に—

大阪赤十字病院病理研究部長

◆編集執筆 / 佐々木 正道

市立堺病院臨床病理部長

花井 淳

大阪府立病院

第1研究検査科(病理)部長

◆共同執筆 / 虎頭 廉

兵庫県立病院がんセンター

副院長兼検査部長

松浦 覺

大阪回生病院病理部長

本多 光 弥



医歯薬出版株式会社

1985年1月16日

R36/2h 224
61



＜編集執筆略歴＞

さきき まさ みち
佐々木 正道

昭和24年 東京慈恵会医科大学卒業
昭和27年 京都大学結核研究所病理部助手
31年 神戸医科大学病理学教室助教授
39年 西独フライブルク大学留学
42年 大阪赤十字病院病理研究部長
現在に至る。
神戸大学医学部、関西医科大学非常勤講師兼任

はな い じゆん
花 井 淳

昭和38年 和歌山県立医科大学卒業
昭和43年 大阪大学医学部大学院
第2病理学講座卒業、助手となる
昭和44年 市立堺病院中央検査部医長
同年より翌年まで米国カリフォルニア
大学(サンディエゴ)に留学
昭和54年 市立堺病院臨床病理部長となり
現在に至る。
大阪大学医学部、大阪市立大学医学部非常勤講師兼任

病院病理学—手術・生検材料を中心に—

定価 15,000円

昭和57年12月10日 第1版第1刷発行

編著者 佐々木 正道
花 井 淳
発行者 今 田 喬 士
印刷者 猪 瀬 英 一

発行所 医歯薬出版株式会社

郵便番号113 東京都文京区本駒込1-7-10 振替東京9-13816
東京本郷局私書箱第8号 電話 東京 (03) 944-3131 (大代)

乱丁・落丁の際はお取り替えます。 印刷・猪瀬印刷/製本・明光社

© Masamichi Sasaki, Jun Hanai et al. <検印廃止>

PRINTED IN JAPAN

F175/139 (日5-4/336)

医院病理学 《以手术、活检材料为中心》

B000400

序

本書は病理と臨床をつなぐ実践的な病院病理学の本として書かれたものである。病院病理学は半ば臨床医学に組み込まれる性質の学問である。病変は時間の経過とともに、形態的にも機能的にも変貌してゆくもので、一枚の病理組織標本は動的な病変の一断面を見ているに過ぎない。したがって、患者に密着した follow up study や、常に病人を観察し、種々な動的検査を行っている臨床医との対話なくしては病院病理学は成立し得ない。われわれはこのような基本的理念を大切にしながらこの本を執筆した。

著者の5人は、病院病理の第一線で活躍し、長年経験を重ねてきた病院病理医で、執筆にあたっては日常の診断業務の中から得られた生きた知識を基礎におき、一方、個人的独善に陥らないように、また全体的な統一性を失わないように注意を払った。

以下、具体的内容の特徴について少し説明する。

発生頻度の高い疾患、病院で扱う頻度の高い疾患、学問的に重要な疾患、最近特に注目されている疾患などを重点的に取り上げた。それは単なる疾患の羅列に終ることを避け、限られた紙面の中で実際に役に立つ本になることを願ったからである。新しい学説や新しい方法論、あるいは新しい分類などもできるだけ取り入れたつもりである。ただ、まだ評価の定まらない先端的学説や、研究にしか利用できないような方法論はこの本の性質上触れていない。

記述の内容は、臓器毎にまず正常の解剖、組織を概説し、わかりやすい模式図を添えた。次に原則として、疾患概説が述べてある。その臓器の病変の全体像を有機的に総合的に把握することは、個々の病変を理解する上で大切なことだと思うからである。疾患別の説明では、組織診断上の重要所見や鑑別診断について詳述し、できるだけ多くの顕微鏡写真を掲載した。顕微鏡写真の質と量は、何とんでもこの種の本にとっては重大なポイントの一つであるはずである。臨床との関連を重視し、臨床所見、疾患頻度、予後、治療などについても具体的な記述に心掛けた。また、組織診断で常に問題になるのは分類上の事項である。特に最近では、国内、国外ともに種々な新しい分類が提唱され、一種の分類ブームといってもよい状況にある。これらの種々な分類を実際に即して取捨選択し、わかりやすく整理することに努力した。細胞診の知識は病院病理医に不可欠のものであるが、実際には病理医にとって一つの盲点ともいえる。本書の細胞診の章は、病院病理医が病理学的観点から書いた細胞診学として、細胞診スクリーナーにとっても興味ある内容といえる。

以上のように、本書は病院病理医のみでなく、病理に関心を持たれる臨床の先生、また医学生、病理実習や臨床講義にも有意義な内容を持つものと確信している。また、病院病理で一緒に仕事をしている検査技師、細胞診スクリーナーの人達にも、参考書として座右において欲しいと思う。

なお、本書の出版は、医歯薬出版関西出張所吉田邦男氏および竹内大氏の本書に対する深い理解と協力によってはじめて実現したもので、両氏に心から謝意を表する。

昭和57年10月

医歯薬出版関西出張所

編 者

推薦の序

病院病理学もしくは病院病理医という言葉は比較的新しく、むしろ臨床病理学の方が一般的である。しかし後者は本来の病理学を越えて臨床検査一般に拡大したので、これを狭義に限定する意味から病院病理学の呼称が用いられるようになった。また一方、わが国の病理学教室においてはなおドイツ病理学の伝統が根強く、かなり基礎的な傾向があることも否めない事実であり、それに対応する意味もあると解釈される。

しかし一般的には、わが国においてもアメリカ病理学が漸次滲透し、従来の病理解剖学以外に生検や細胞診などの臨床医学に直結する、いわば practical な方法論や CPC などの臨床医とのカンファレンスが盛んに導入されるようになってきた。そして実際に、個々の病院に病理医が専属して、手術中に剔出した患部組織の凍結切片による迅速診断が慣用され、その疾患の本態や局在が直ちに診断され、その場で手術の手技や範囲を決定するほど、病院病理学者は臨床の側に組み込まれて、病理“医”といっても何の異和感もなく診療医の真只中に加わるようになった。そして少なくとも300床以上の総合病院には欠く事のできない一つの標榜科たらしとする現状にあるといえる。

したがって病院病理医にとって常に座右にいくつかの参考書を必携としなければならないが、その中でも、最も速やかに且つ有効な書が必要となる。また臨床医家にしても常に病理医と接触を保ち、それより得た情報を十分に理解するに便利な病理学指導書が求められる。さらに臨床検査室にあって常に身近に病理医と連繋作業をする臨床検査技師諸氏も意志疎通のために行き届いた病院病理学参考書が望まれるはずである。本書は上述の諸点に最も正しく対応するものとしてその特長を説明する。

第一にまず著者のすべてが第一線病院の専任病理医であって、その永年の経験と苦心から最も有用であると考えた専門書を著述された事である。これは全くユニークで、大学の病理学者の主導でなされた多くの専門書とおのずから異なった成書といえる。また各氏は日本病院病理医協会関西支部の有力メンバーであり、それぞれ各大学の講師を兼任されて病理学教室と密な関係を保たれている篤学の士であることは内容を一見されれば明白である。

次に具体的な内容の特長を以下にあげ得る。まず項目毎に疾患概説としてその分野の疾患の特長の要約と著者の解説が興味深くなされ、且つその疾病頻度の分布が要領よく纏められている事である。この事は本書が実際ので親しみやすい印象を与えている。勿論紙面の都合もあり、すべての項目について著者の意図が必ずしも伝えられているとはいえないにしても、将来的には改版により練磨されるに相違ないと考えられる。

第二には、その項目の分類法の基準が示されていることである。これは重要であって、臨床医は常に自ら診療した患者の予後を正確に把握する義務があり、それはまた一般に通用する基準によるなければならないのである。したがって、そのためには国際的国内的に普遍的な分類法を必要とする。本書にはその意味において各項目につき WHO の分類法と国内の専門学会の分類法を適宜に合理的に採用されている。もっとも学問には自由があり、自らの見解があつてすべてを既成の分類

1985年1月16日

法に委ねるべしとはいえないが、一応の基準と建前が示された事になる。

第三には、各項目ともに上述の共通点を有しながら、著者によりまたは分野に従って、それぞれ特長のある記述がなされて、独創の興味も見出す事ができる。勿論紙面の制限もあり必ずしも同一の歩調を取り得ないけれども、相互の相違の中に著者の独自の立場が窺がわれて有用な内容となっている。

擧筆するに当り、かつて私が編集し本出版社より発刊された「ベッドサイドの病理学」を参照されたき旨、附記する。

大阪大学名誉教授

日本病院病理医協会 関西支部長

岡 野 錦 彌

目 次

序	III
推薦の序	V

1/口腔・唾液腺 1

口 腔 1

I. 形成異常	1	4. 白斑と白板症	3
1. 正中菱形舌炎	1	5. 扁平上皮癌	3
2. 舌甲状腺結節	1	III. 非上皮性腫瘍および腫瘍類似病変	5
II. 上皮性腫瘍および腫瘍類似病変	2	1. エプーリス	5
1. 嚢 胞	2	2. 化膿性肉芽腫	6
2. 扁平上皮乳頭腫	2	3. 顆粒細胞腫	7
3. 乳頭状過形成	2	4. その他の非上皮性腫瘍	7

唾 液 腺 7

I. 炎 症	8	1. 上皮性腫瘍	9
II. 唾石症	8	2. 非上皮性腫瘍	15
III. 良性リンパ上皮性疾患	8	3. 分類不能腫瘍	15
IV. 腫 瘍	9	文 献	15

2/耳鼻・咽喉 16

耳 16

I. 炎 症	17	II. 腫 瘍	18
1. 耳介軟骨膜炎	17	1. 良性腫瘍	18
2. 慢性中耳炎および乳突炎	17	2. 悪性腫瘍	18

鼻腔および副鼻腔 19

I. 炎 症	20	1. ウェゲナー肉芽腫	22
1. ポリープ	20	2. 悪性組織球症	23
2. 非ポリープ性炎症性病変	20	III. 腫 瘍	25
II. いわゆる進行性壊疽性鼻炎	21	1. 上皮性腫瘍	25

VIII

2. 軟部腫瘍	27	4. リンパ造血組織腫瘍	28
3. 骨・軟骨腫瘍	28	5. その他の腫瘍	28

咽頭および喉頭 29

I. 炎症	29	2. 声帯ポリープ	30
1. 扁桃炎	29	III. 腫瘍	30
2. 結核性喉頭炎	30	1) 良性腫瘍	30
II. 腫瘍類似疾患	30	2) 悪性腫瘍	30
1. 咽頭扁桃肥大	30	文 献	32

3/肺臓・胸膜 33

I. 肺のうっ血と水腫	36	VI. 慢性閉塞性肺疾患	46
II. 無気肺	36	1) 慢性気管支炎	47
III. 炎症	37	2) 慢性肺気腫	47
1. 大葉性肺炎	37	3) 気管支喘息	47
2. 気管支肺炎	38	VII. 肺腫瘍	47
3. 肺膿瘍と肺壊疽	38	1. 肺原発良性腫瘍	47
4. 結核性炎症	38	1) 上皮性良性腫瘍	47
5. サルコイドーシス	40	2) 非上皮性良性腫瘍	47
6. ウェゲナー肉芽腫症	40	3) 過誤腫	48
7. 原発性非定型性肺炎	40	4) 平滑筋の過誤腫性増殖	48
8. 過敏性肺臓炎	41	5) 類皮嚢胞または奇形腫	48
9. 日和見感染	41	2. 肺原発悪性腫瘍	48
1) 真菌症	41	1) 肺 癌	48
2) 巨細胞封入体肺炎	43	2) 肺肉腫	55
3) ニューモチスチス・カリニ肺炎	43	3) その他の肺原発腫瘍	55
IV. 塵肺症	43	3. 転移性腫瘍	56
1) 炭肺症	43	VIII. 胸膜腫瘍	56
2) 珪肺症	44	1. 転移性腫瘍	56
3) 石綿肺症	44	2. 中皮腫	57
4) ベリリウム肺症	44	文 献	58
V. 肺線維症および慢性間質性肺炎	45		

4/食 道 59

I. 非腫瘍性病変	60	1. 食道炎	60
-----------	----	--------	----

2. 食道消化性潰瘍	61	1. 良性腫瘍および腫瘍様病変	62
3. 食道裂傷	61	2. 癌腫	62
4. 強皮症	61	3. 肉腫	66
5. 食道痙攣	61	4. その他の悪性腫瘍	66
6. 食道巨大筋肉肥大	61	5. 転移性腫瘍	66
7. 先天異常	61	文献	66
II. 腫瘍	62		

5/胃 67

I. 非腫瘍性病変	69	II. 腫瘍	75
1. 胃炎	69	1. 良性腫瘍および腫瘍様病変	75
2. 異型上皮	72	2. 悪性腫瘍	78
3. 胃潰瘍	73	1) 胃癌	78
4. 胃内異物	74	2) カルチノイド	85
5. 異所性腺	75	3) 平滑筋肉腫	85
6. 幽門輪肥大	75	4) 悪性リンパ腫	86
7. その他	75	文献	87

6/小腸・虫垂 89

小腸 89

I. 非腫瘍性病変	90	2. 上皮性悪性腫瘍	95
1. 各種の腸炎	90	1) 小腸腺癌	95
2. 吸収不良をきたす疾患	91	2) カルチノイド	95
3. クロウン病	92	3. 非上皮性良性腫瘍	97
4. 十二指腸潰瘍	93	1) 平滑筋腫	97
5. 腸重積	93	2) 脂肪腫	98
6. 放射線障害	94	3) 血管系腫瘍	98
7. 先天異常	94	4. 非上皮性悪性腫瘍	98
II. 腫瘍	94	1) 平滑筋肉腫	98
1. 上皮性良性腫瘍	94	2) 悪性リンパ腫	98

虫垂 99

I. 非腫瘍性病変	99	2. 慢性虫垂炎	100
1. 急性虫垂炎	99	3. 粘液瘤	100

II. 腫瘍	100	2. カルチノイド	100
1. 虫垂腺癌	100	文 献	101

7/大腸・肛門

大 腸	103		
I. 非腫瘍性病変	104	1. 良性腫瘍	106
1. 腸結核	104	1) 非腫瘍性ポリープ	106
2. クローン病	105	2) 腫瘍性ポリープ	107
3. 潰瘍性大腸炎	105	3) 多発性ポリープ	109
4. 貧血性大腸炎	106	2. 大腸腺癌	110
5. アメーバ赤痢	106	3. カルチノイド	111
II. 腫瘍および腫瘍様病変	106		
肛 門	111		
I. 非腫瘍性病変	112	II. 腫瘍	114
1. 痔裂, 肛門潰瘍, 痔瘻	112	1. 良性腫瘍および腫瘍様病変	114
2. 痔核	113	2. 悪性腫瘍	114
3. 先天異常	114	文 献	116

8/肝臓・胆嚢・胆管

肝 臓	117		
I. 炎症性疾患	119	2. 带状肝壊死	124
1. 急性肝炎	119	3. うっ血肝	125
2. 慢性活動性肝炎	120	4. 脂肪肝	125
3. 慢性非活動性肝炎	120	5. 胆汁うっ滞症	125
4. 非特異性反応性肝炎	121	1) 肝外胆汁うっ滞症	125
5. 激症肝炎	121	2) 肝細胞胆汁代謝・胆汁排泄障害	126
6. 細胆管炎性肝炎	121	6. 糖原病	127
7. 肉芽腫性肝炎	122	7. 肝アミロイドーシス	127
8. ルポイド肝炎	122	III. 肝硬変症	127
9. 薬剤性または中毒性肝炎	123	1. 肝線維症	127
10. アルコール性肝炎	123	2. 肝硬変症	128
11. 肝膿瘍	124	3. 原発性胆汁性肝硬変症	130
II. 主として変性に基づく疾患	124	IV. 腫瘍および腫瘍様病変	130
1. 肝嚢胞	124	1. 肝細胞異形成	130

2. 肝細胞腺腫	130	6. 転移性肝癌	135
3. 肝細胞癌	131	7. 白血病	135
4. 肝芽腫	134	8. 肝肉腫	135
5. 胆管細胞癌	134		
		胆嚢・胆管	136
I. 胆嚢の非腫瘍性病変	137	1. 胆嚢腺腫	139
1. 急性胆嚢炎	137	2. 胆嚢癌	139
2. 慢性胆嚢炎	137	3. その他の胆嚢悪性腫瘍	140
3. 胆石症	138	III. 胆管の疾患	140
4. 胆嚢先天異常	139	文 献	141
II. 胆嚢腫瘍	139		
9/ 脾 臓	142		
I. 非腫瘍性病変	143	1. 嚢胞腺腫	144
1. 急性および慢性脾炎	143	2. 脾 癌	145
2. 脾嚢胞	144	3. 乳頭膨大部癌	146
3. 先天異常	144	4. 脾島腫瘍	146
II. 腫瘍および腫瘍様病変	144	文 献	148
10/ 腹膜・大網・腸間膜・後腹膜	149		
		腹 膜	149
I. 非腫瘍性病変	149	2. 中皮細胞過形成	150
1. 炎 症	149	3. 腹膜中皮腫	150
2. 腹膜異物肉芽腫	150	4. 転移性腫瘍	151
II. 腫瘍および腫瘍様病変	150	5. 腹膜偽粘液腫	152
1. 嚢 腫	150		
		大 網	152
I. 非腫瘍性病変	152	II. 腫 瘍	152
出血性梗塞	152		
		腸 間 膜 (または小腸間膜)	152
I. 非腫瘍性病変	153	2. 腸間膜血栓症	153
1. 腸間膜炎	153	3. 腸間膜嚢腫	153

II. 腫瘍および腫瘍様病変 153

後 腹 膜 154

I. 非腫瘍性病変 154

1. 後腹膜膿瘍 154

2. 後腹膜血腫 154

3. 軟板症 154

II. 腫瘍および腫瘍様病変 154

1. 特発性後腹膜線維症 154

2. 後腹膜腫瘍 155

1) 良性非上皮性腫瘍 155

2) 悪性非上皮性腫瘍 155

3) 胚細胞性腫瘍 156

4) 卵巣腫瘍型の腫瘍 156

5) 転移性腫瘍 156

3. 後腹膜臓器の腫瘍 156

文 献 156

11/腎 臓 157

I. び慢性糸球体病変 162

1. リポイドネフローゼ 162

2. 膜性糸球体腎炎 163

3. 膜性増殖性糸球体腎炎 (I型とIII型) 165

4. dense deposit glomerulonephritis 166

5. 増殖性メサンジウム糸球体腎炎 166

6. 急性び慢性増殖性糸球体腎炎 167

7. 急速進行性糸球体腎炎 168

8. 慢性進行性糸球体腎炎 169

9. 終末期腎 170

II. 巣状糸球体腎炎 171

1. IgA 腎症 172

2. Schönlein-Henoch 症候群に伴う

腎炎 172

3. 亜急性心内膜炎に伴う腎炎 173

4. グッドパスチャー症候群 173

5. Alport 症候群 174

6. 巣状局所性糸球体硬化症 174

III. 膠原病と腎病変 175

1. 全身性紅斑性狼瘡 (ループス腎炎) 175

2. 多発性結節性動脈炎と過敏性血管炎 176

3. ウェグナー肉芽腫症 177

4. 進行性全身性硬化症 177

IV. 尿細管, 間質の病変 178

1. 尿細管の病変 178

2. 間質性病変 180

V. 血管性・循環性病変 183

1. 良性腎硬化症 183

2. 悪性腎硬化症 184

3. 老人性動脈硬化性腎 185

4. び慢性皮質壊死 185

5. 凝固異常症と腎 185

VI. 代謝障害性病変 186

1. 糖尿病性腎症 186

2. アミロイド腎 188

3. ミエローマ腎 188

VII. 腫 瘍 189

1. 良性腫瘍 189

2. 悪性腫瘍 189

文 献 191

12/膀胱・尿道・陰茎 192

膀胱	192
I. 非腫瘍性病変	194
1. 炎症	194
1) 膀胱炎	194
2) 膀胱結核	194
3) 腺性または嚢胞性膀胱炎	194
4) 濾胞性膀胱炎	195
5) 間質性膀胱炎またはハンナー潰瘍	195
6) ポリープ様膀胱炎	195
7) リン酸痙皮膀胱炎	196
8) 軟板症	196
2. 変性・機械的損傷・奇形	196
1) 膀胱結石	196
2) 膀胱アミロイド症	197
3) 膀胱頸部拘縮	197
4) 膀胱憩室	197
5) 膀胱外反症	197
6) 膀胱損傷	197
7) 膀胱尿管異常	197
II. 膀胱腫瘍	198
1. 良性上皮性腫瘍および腫瘍様病変	198
2. 良性非上皮性腫瘍	199
3. 悪性上皮性腫瘍	199
4. 悪性非上皮性腫瘍	203
5. その他の悪性腫瘍	203
尿道・陰茎	204

I. 非腫瘍性病変	204
1. 陰茎尖圭コンジローム	204
2. 梅毒下疳	205
3. ペーロニ病	205
4. 硬化性脂肪肉芽腫	206
5. 尿道カルンクル	206
II. 腫瘍	206
1. 紅色肥厚症	206
2. 陰茎扁平上皮癌	206
3. 男子尿道癌	207
4. 転移癌	207
5. その他の陰茎腫瘍	207
6. 女子尿道癌	207
文献	207

13/前立腺 209

I. 前立腺炎	210
II. 前立腺肥大	211
III. 悪性腫瘍	211
1. 前立腺癌	211
2. その他の前立腺の癌	215
3. 肉腫	215
文献	215

14/睪丸・副睪丸・精索 216

睪丸（または精巣）	216
I. 非腫瘍性病変	218
1. 炎症性疾患	218

2. 辜丸萎縮	218	2) 辜丸水瘤	219
1) 精子形成不全	218	3) 陰囊血瘤	220
2) 精母細胞成熟抑制	219	4. 先天奇形	220
3) 胚細胞無形成	219	異所性脾臓	220
4) 細精管周囲線維化	219	II. 腫瘍	220
5) 未熟辜丸	219	1. 胚細胞性腫瘍	220
3. 嚢胞および硬結を生じる疾患	219	2. 非胚細胞性腫瘍	226
1) 精系静脈瘤	219		
副 辜 丸(または精巣上体)	227		
I. 非腫瘍性病変	227	3. 癌腫	228
副辜丸炎	227	4. 類腺腫	228
II. 腫瘍および腫瘍様病変	228	5. 平滑筋腫	229
1. 副辜丸嚢胞	228	6. 胎児転位腫	229
2. 乳頭状嚢胞腺腫	228		
精 索	229		
I. 非腫瘍性病変	229	4. 辜丸付随物	230
1. 精液瘤	229	II. 腫瘍	230
2. 精子肉芽腫	229	文 献	230
3. 捻 転	230		
15/子宮・胎盤・腔・外陰部	231		
子 宮	231		
I. 子宮頸部の疾患	233	2. 腫瘍性疾患	245
1. 非腫瘍性疾患	233	1) 子宮内膜癌	245
2. 腫瘍性疾患	236	2) 子宮筋腫	247
II. 子宮体部の疾患	242	3) 子宮原発の肉腫	248
1. 非腫瘍性疾患	242		
胎 盤	250		
I. 非腫瘍性疾患	251	5. 胎盤梗塞	252
1. 合胞細胞性子宮内膜炎	251	II. 腫瘍	252
2. 異所性の脱落膜形成	251	1. 胞状奇胎	252
3. 絨毛の残存	252	2. 破壊性胞状奇胎	253
4. 子宮外妊娠のさいの子宮内膜	252	3. 絨毛上皮腫, 悪性絨毛上皮腫, 絨	

毛上皮癌	253	4. 絨毛血管腫	254
		腔	255
I. 非腫瘍性疾患	255	1. 良性腫瘍	255
1. 炎症	255	2. 悪性腫瘍	255
2. Gartner's duct cyst	255	3. ブドウ状肉腫	255
II. 腫瘍	255	4. その他	256
		外陰部	256
I. 非腫瘍性疾患	256	1. 良性腫瘍	257
1. Bartholin 腺炎	256	2. 悪性腫瘍	257
2. 尖圭疣疹	256	文 献	257
II. 腫瘍	257		
16/ 卵巣・卵管	258		
		卵 巣	259
I. 炎症	260	1. 通常上皮性腫瘍	263
II. 非腫瘍性嚢胞と腫瘍類似疾患	260	2. 生殖索・間質性腫瘍	269
1. 胚上皮封入嚢胞	260	3. 脂質細胞腫瘍	273
2. 卵胞嚢胞	260	4. 胚細胞性腫瘍	273
3. 子宮内膜嚢胞, チョコレート嚢胞	261	5. 性腺芽細胞腫	278
4. 黄体嚢胞	261	6. 卵巣非特異性軟部組織腫瘍	278
5. 莢膜黄体嚢胞	261	7. 分類不能腫瘍	279
6. 多嚢胞卵巣	262	8. 転移性腫瘍	279
III. 卵巣腫瘍	262		
		卵 管	279
I. 卵管炎	279	文 献	280
II. 腫瘍	280		
17/ 乳 腺	281		
I. 炎症	283	1) 乳腺結核	283
1. 急性乳腺炎	283	2) 形質細胞性乳腺炎	284
2. 乳腺膿瘍	283	3) 脂肪壊死	284
3. 慢性乳腺炎	283	4) 異肉芽腫	284

II. 乳腺症	284	4) 乳頭部腺腫	290
1. 主に間質の増生による病変	285	2. 悪性上皮性腫瘍(乳癌)	290
線維症	285	1) 非浸潤癌	291
2. 主に乳管の拡大による病変	285	2) 浸潤癌	291
3. 主に腺細胞の増生による病変	286	3. 非上皮性良性腫瘍	297
4. 腺細胞, 筋上皮細胞および線維芽細胞の増生する病変	287	4. 非上皮性悪性腫瘍	297
III. 腫瘍	288	IV. その他の疾患	298
1. 良性上皮性腫瘍	288	1. 先天奇形	298
1) 線維腺腫	288	2. 乳腺肥大	298
2) 葉状嚢胞肉腫	289	3. 思春期乳腺, 妊娠乳腺, 授乳期乳腺	298
3) 管内乳頭腫	289	4. 女性乳房	299
		文 献	299

18/ 胸腺・縦隔洞 300

胸 腺 300

I. 非腫瘍性病変	301	純赤血球性形成不全	305
1. 発生異常	301	免疫不全症候群(Good 症候群)	305
1) 位置の異常	301	2. 胸腺脂肪腫	305
2) 形成不全	302	3. 胸腺カルチノイド	305
2. 退縮	302	4. 胚細胞性腫瘍	306
3. 過形成	303	5. 悪性リンパ腫	306
II. 腫瘍および腫瘍性病変	303	6. 続発性腫瘍	306
1. 胸腺腫	303	7. 胸腺嚢胞	306
重症筋無力症	305		

縦 隔 洞 307

文 献 308

19/ リンパ節 309

I. 非特異性炎症	311	3. 野兔病	314
1. 非特異性急性リンパ節炎	311	4. 猫ひっかき病	314
2. 非特異性慢性リンパ節炎	311	III. 悪性リンパ腫	315
II. 特異性炎症	312	1. 非ホジキンリンパ腫	315
1. 結核性リンパ節炎	312	2. 単クローン性免疫グロブリン産生を伴うリンパ腫	322
2. サルコイドーシス	313		

3. ホジキン病	324	8. 木村氏病	332
4. リンパ節外に原発する悪性リンパ腫	326	9. Warthin 腫瘍	333
IV. リンパ腫と紛わしい病変	328	V. 組織球, 単球増殖性疾患	333
1. 免疫芽球性リンパ節症および類似病変	328	1. 悪性組織球症	333
2. 薬剤性リンパ節症	329	2. Letterer-Siwe 病	334
3. 壊死性リンパ節炎	329	3. 骨の好酸球性肉芽腫	334
4. トキソプラズマ症	330	4. Hand-Schüller-Christian 病	335
5. 伝染性単核症	331	5. Gaucher 病	336
6. 皮膚病性リンパ節炎	331	6. Niemann-Pick 病	336
7. Castleman リンパ腫	332	文 献	337

20/ 脾臓・骨髓

脾 臓	339
1. 変 性	341
2. 血鉄症	341
3. 脾破裂	341
4. 脾梗塞	341
5. 非特異性急性脾炎	342
6. 慢性反応性肥大	342
7. リウマチ性疾患(膠原病)における脾病変	342
8. うっ血性脾腫	343
9. 髓外造血	344
10. 白血病	345
11. 腫 瘍	345
12. その他の病変	346
骨 髓	346
骨髓線維症	347
文 献	348

21/ 甲状腺・副甲状腺

甲 状 腺	349
I. 発育異常	350
1. 異所性甲状腺	350
2. 甲状舌管嚢胞	350
3. 鰓裂嚢胞	351
II. 甲状腺炎	351
1. 亜急性甲状腺炎	351
2. 橋本甲状腺炎	351
3. リーデル甲状腺炎	352
4. 非特異性慢性甲状腺炎	352
III. 単純性甲状腺腫	353
1. び慢性甲状腺腫	353
2. 結節性甲状腺腫	353
IV. グレイブス病(バセドウ病)	354
V. 腫 瘍	355
1. 腺 腫	355
2. 癌	356